

目指す学校像	笑顔あふれ 瞳かがやく子の育成 ～あふれる笑顔、かがやく瞳～
--------	--------------------------------

重点目標	1 自他のよさを伸長し、自立・自走する教育のプロを育成する。 2 丁寧な児童理解にもとづく積極的な生徒指導を推進する。 3 保護者・地域とともに自ら考え行動する児童を育成する。 4 自ら考え、主体的に学ぶ児童を育成する。 5 学校安全体制の充実を図る。
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○児童のよさに目を向け、それらを伸長しようとする意識は、定着している。 ○職員個々のよさに焦点を当てたコミュニケーションを進めたことで自らのよさを前面に出す姿が見られる。 ○新たな教職員研修をスタートさせた。 <課題> ○継続的に一人ひとりのよさに目を向け、認め、褒める姿勢でよさを伸長する取組の一層の定着を図る。 ○教職員研修に外部講師を招聘し、資質及び指導力を向上させる。 ○会議等の精選に努める。	・自他のよさを伸長し、自立・自走する教育のプロを育成 ・教職員研修の充実による指導力の向上	1 自他のよさを伸長することを学校経営方針に位置付け、年度当初に職員に周知するとともに、適時、確認をし、意識化を図る。 2 外部講師(指導主事・大学教授)を招聘した研修会を行い、授業の工夫・改善を行う。 3 会議等の精選に努め、職員が授業準備や児童理解に時間を使い、よさの伸長に注力できるようにする。	1 学校経営方針に該当項目を位置付けたか。また、意識化を図る取り組みをしたか。 2 外部講師を招聘した研修会を実施し、授業の工夫・改善に取り組むことができたか。 3 学校評価アンケートにおいて、関連項目への肯定的な回答が80%以上となったか。					
2	<現状> ○定期開催の児童理解部会、適宜開催のケース会議等により情報を教職員全体で共有している。 ○より丁寧な児童理解、教育相談、保護者面談等を実現するため、会議や事務処理を見直し、放課後の時間の確保に努めている。 <課題> ○組織的に対応することで児童が安心して登校できるようにする。 ○児童へのアプローチの仕方など、すべての職員が同じスタンスで行えるようにする。 ○会議や事務処理の見直しや改善に引き続き取り組む。	・丁寧な児童理解にもとづく積極的な生徒指導の推進	1 学年内教職員の情報交換を密にし、迅速に適切な児童対応ができるようにする。 2 児童理解に関する部会を定期的に行い、児童へのアプローチの仕方など、すべての職員が同じスタンスで行えるようにする。 3 通知票の発行回数2回の継続や集金方法の改善により、職員が児童理解や生徒指導、教育相談、保護者との連携に時間を使えるようにする。	1 学年会において、情報交換の時間を設け、児童への対応について検討することができたか。 2 児童理解部会を定期的で開催し、必要な情報を学校全体で共有することができたか。また、関係機関との連携も含め、個別の対応について検討することができたか。 3 通知票の発行回数2回の継続と集金方法の改善に取り組むことができたか。					
3	<現状> ○学校運営協議会・SSN協議会ともに企画・運営・まとめについて計画的に進めることができている。 ○保護者や地域に向けて、児童の様子や学校の活動の様子を様々な手段で発信している。 <課題> ○熟議によりいただいた示唆・ニーズについて、学校としての取り組み方を検討し、実行できるようにしていく。 ○児童数及び学級数の増加への対応を丁寧につつ、来校による授業参観や安全性を考慮した情報発信を適時行う。	・学校運営協議会・SSN協議会を軸とした、学校と地域の一体感を醸成 ・保護者・地域への迅速・丁寧な対応	1 学校運営協議会を軸に学校経営及び運営の課題について、学校・保護者・地域が一体となって改善していく。 2 様々な立場の方に委員をお願いすることで幅広く連携・協力体制を築く 1 新たにアプリを導入し、学校ホームページと併せて、情報発信ツールとして活用する。 2 個人情報保護の観点を踏まえた、情報発信の方法を検討し、安全に情報発信を行う。	1 学校運営協議会を年間3回開催し、学校経営及び運営について、熟議できたか。 2 学校運営協議会委員を様々な立場の方に依頼し、連携・協力体制を充実させることができたか。 1 アプリを導入し、情報発信を行うことで保護者が情報を得やすくなることができたか。 2 情報発信について、個人情報保護に配慮した方法で安全に発信することができたか。					
4	<現状> ○ICTの活用について、定着が図られており、授業の中で使用する機会も多い。 ○学習に前向きに取り組む児童が多い。 <課題> ○ICTを一つのツールとして使用し、児童が考え・児童同士が学び合う授業を行い、主体的に学ぶ姿勢を育み、基礎基本の定着を図る。 ○アンケートの実施及び結果の活用により、実態に即した授業改善を行う。	・授業の工夫により、主体的に学ぶ児童を育成。	1 学びのポイント「じ・し・や・く」の実践、及び、スクールダッシュボードに蓄積されるデータの活用により、授業改善を進め、主体的に学ぶ児童を育成する。 2 学びの指標の学習者用アンケートと授業者用チェックリストを活用し、授業の振り返りと改善に取り組む。	1 学びのポイント及びスクールダッシュボードを活用し、授業改善を進めることができたか。 2 学びの指標の学習者用アンケートを年2回実施し、授業者用チェックリストと併せて活用し、授業の振り返りを行うことができたか。					
5	<現状> ○児童数増加により、仮設校舎を建設中である。 ○今後、令和6年度中に仮設給食室の建設も予定されている。 <課題> ○仮設校舎の使用、仮設給食室の工事に際して、安全対策を講じ、事故防止に努める。	・仮設校舎の使用に合わせ、安全対策を講じる。	1 児童の行動を念頭に置いた安全対策を講じる。 2 仮設校舎完成時のみならず、使用開始後にも実際の児童の様子を考慮した安全対策を適時講じる。 3 仮設給食室建設に係る工期等を児童・保護者・地域へ周知。	1 児童の行動を念頭に置いたルール作りができたか。 2 実際に使用を開始した後も安全対策を講じるための話し合いの場を設定できたか。 3 仮設給食室の工期等を学校だより等で周知できたか。					